

漢点字 講習用 テキスト

初 級 編
第 一 回
(全十回)

横浜漢点字羽化の会
二〇〇三年六月十五日

はじめに

これまで我が国の視覚障害者には、母国語である日本語を表記する文字がありませんでした。一九六九年に、大阪府立盲学校で教えておられた、故川上泰一先生が、〈漢点字〉を世に問われて、初めて日本語を表す文字を手にしたのでした。

しかし、川上先生のご努力にもかかわらず、残念ながら未だ公教育の場ではこの〈漢点字〉を取り上げようという気運がなく、その普及も極めて遅々としております。

本会では、改めてオリジナルな方法で、〈漢点字〉の学習環境作りに、挑戦してみることにしました。

本テキストも、独自に作成するものです。先人・川上先生の『漢点字解説』を参考に、一つ二つの工夫を加えてみる積もりでおります。

目 次

テキストの概要 1

第 一 回

1	基本文字 (1)		5
	漢数字 (1)		5
	〈一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 廿 百 千 万 億 兆 〇〉		
	近似文字 (1)		8
	《亜 参 丸 意 元》		
	読みの練習 (1)		9
	書き取り問題 (1)		11
2	基本文字 (2)		
	1. 第一基本文字 (1)		12
	〈目 糸 系 比 数 家 宿 学 言 語 頁 貝〉		
	近似文字 (2)		14
	《真 面 云 首 鼻》		
	読みの練習 (2)		15
	書き取り問題 (2)		16
	2. 第一基本文字 (2)		18
	〈金 木 草 犬 子 都 市 発 食 馬 田 竹〉		
	近似文字 (3)		21
	《未 末 本 由 曲》		
	読みの練習 (3)		22
	書き取り問題 (3)		23
	3. 第一基本文字 (3)		25
	〈土 手 戸 人 仁 水 氷 力 示 私 走 進 火 女 玉 方 石〉		
	近似文字 (4)		28
	《永》		
	読みの練習 (4)		29
	書き取り問題 (4)		30
	4. 第一基本文字 (4)		32
	〈耳 車 門 病 行 店 月 肉 分 日 性 心 口 罇 十 止〉		
	近似文字 (5)		36
	《必 才 正》		
	読みの練習 (5)		37
	書き取り問題 (5)		39
㊦	ティータイム 『ちよと使えるお天気知識』		41

テキストの概要

1. テキストの構成

初級のテキストに収録される漢字は、教育漢字八八一文字に、出現文字の構成の説明のために、必要な少数の文字を加えたものです。すなわち、小学校の一年生から六年生が学んでいるものと同程度の数です。

中級のテキストは、残りの千字あまりを収録します。日常生活では、五～六百字を使えば不自由なく過ごせると言われています。つまり、この初級のテキストを修了すれば、かなりのところ漢字を使うという手応えを感じていただけるものと思います。

中級では、一つ一つの漢字というよりも、語の使い方、語彙の豊かさを手に入れていただくことが目標になります。漢字の世界に踏み入っていただくことで、これまでとは違った世界が開けて行くことを、お約束します。

2. 漢字と日本語

(1) 漢字

〈漢字〉は、中国の殷の時代に作られたと言われています。今から三千年以上昔のことです。それから約千年の間に、目覚ましく発達しました。その数も増え、使用地域も拡大して行きました。しかも、『諸子百家』と呼ばれる思想家や、多くの詩人・文人をも輩出しました。すなわち、文字は当初から、単に伝達のためばかりに用いられたのではなかったのです。

紀元前三世紀に、秦の始皇帝が、分裂していた中国を統一しました。そして、統治の方法として、度量衡の統一とともに、文字の統一にも着手しました。

現在の〈漢字〉は、その始皇帝の統一から続いているものです。

(2) 我が国への渡来

我が国に〈漢字〉が渡来したのは、『古事記』などの文献によれば、五世紀ころ、百濟から和迺吉師（ワニキチシ）によって、『論語』などとともにもたらされたとあります。が、いきなり文字がやって来たとは考え難いのと、冊封として中国（後漢）からもたらされたとしい金印が発掘されたりで、かなり以前に海を渡って来ていたと考えられます。

しかし、我が国でまとまった文書が編まれたのは、ずっと後の八世紀になってからで、『古事記』『日本書紀』、ついで『万葉集』が出現しました。

(3) 日本語と漢字

我が国には独自の文字がありませんでしたので、中国から渡って来た〈漢字〉を、日本語の表記に用いるようになりました。しかし、もともと中国の文字ですので、そのまま日本語を表すことができず、ごく初期の書き言葉は、当時の中国語をそのまま使っていたと言われていました。

下るに従って、漢文を日本語式に読んだり（漢文訓読）、ひらがなやカタカナの発明など、文字表現の幅が大きく広がりました。

(4) 漢字の特徴

a. **単音節と表意文字**：中国語を表記するための文字〈漢字〉は、中国の発音で読まれるようにできています。中国語の単語の最小単位は一音節ですので、〈漢字〉の読みも、一音節です。しかも、一音節が単語の最小単位ですので、〈漢字〉も、単語を表すことになります。このことから〈漢字〉は、『表意文字』と呼ばれていますし、単語を表す文字という意味で『表語文字』とも呼ばれています。

b. **日本語の読み**：〈漢字〉を日本語で読む場合、二つの読み方があります。

①**音読み**：昔の中国語の読みを、日本語化した読みです。日本語の中には、この音読した漢字二文字でできた熟語が沢山あります。このような読み方の熟語を「漢語」と呼んでいます。

②**訓読み**：〈漢字〉を日本語読みしたものです。音節では一音節から数音節の読みまであります。例を挙げれば、

体言では、

一音節：エ（絵）、カ（蚊）、キ（木）、ケ（毛）、ト（戸）

二音節：イエ（家）、マチ（町）、ミチ（道）、イチ（市）、スミ（墨）

三音節：ハタケ（畑）、クルマ（車）、ハシラ（柱）、トコロ（所）、ミヤコ（都）

四音節：ミズウミ（湖）、ヨコシマ（邪）

五音節：タナゴコロ（掌）、ヨリドコロ（拠）

用言では、語尾の活用があるため、「送りがな」という表記がされません。

ユク（行）、クル（来）、アルク（歩）、ハシる（走）、
ウツクしい（美）、タマワる（賜）、ウズクまる（蹲）、
ウケタマワる（承）





3. 漢点字

(1) 漢点字の創案







〈漢点字〉は、故・川上泰一先生が、大阪府立盲学校に在職しておられるとき、二十年を超える研究の後、一九六九年に発表されたもので、漢字を表す触読文字としては、初めて世に出されたものでした。

それまで日本語を表す触読用の文字は、明治二十三年に〈日本語点字〉として公式に認められた、石川倉次先生の、カナ点字だけでした。つまり、日本語の標準的な表記法である「漢字仮名交じり文」は、それまでは表すことができなかったものでした。

(2) 漢点字の構成

〈漢点字〉は、八つの点で表されます。と言っても、基本的なパターン「」のうち、「」と「」は、〈漢点字〉であることを示す〈漢点字符号〉と呼ばれるもので、文字を表す点字の符号は、これまでのカナの点字と変わらない六つの点「」です。

〈漢点字〉は、一マスなのが五十七個、常用漢字のうちそれを除いたものは、全て二マスでできています。

例 漢点字のパターン：一マス 
二マス  
三マス   

4. テキストの進め方

(1) 基本文字と複合文字

「基本文字」とは、漢字の中の最小単位の文字を言います、漢字の分類法に〈六書〉がありますが、この中では「象形文字」と「指事文字」がこれに当たります。漢点字では、この二つに加えて、「会意文字」と「形声文字」の一部も含まれています。

「複合文字」とは、「基本文字」を部首（ブロック）として組み立てられた文字です。「六書」では、「会意文字」と「形声文字」がそれに当たります。

このテキストでは、「基本文字」とそれらによって組み立てられている「複合文字」を、交互にご紹介します。

なお、〈近似文字〉という文字が、〈基本文字〉の最後に出て来ますが、「形がよく似ている文字」の意味で、〈基本文字〉の一つに数えられています。

(2) テキストの構成

初級は十回に分けて、またその中を何回かに分けて、漢点字のご紹介、意味と使われ方、熟語のご紹介をします。

見出し語の後ろには音読みと訓読みがあります。

次に、読みの練習文と書き取りの問題があります。書き取りは、一回分をまとめて、郵送して下さい。

書き取りの解答を落手した後に、次回のテキストをご送付します。また、書き取りの解答を採点した結果もお伝えします。

このテキストは、後々にも役立てていただけます。文字は使って初めて身に付くものです。必ずしも覚え込む必要はありません。どんどん忘れて下さい。

忘れたら、このテキストをご覧になって、もう一度思い出して下さい。お気楽に向かっていたいただくのが、漢点字学習の、最も有効な秘訣です。

* * * * *

第一回

[これから〈漢点字〉をご紹介しますが、従来の点字にはない点文字符号が出て来ます。先ず、「⠠ (6の点)」は、「行頭下点」と呼ばれる符号です。点文字符号の下の二つの点「⠠」がない漢点字「⠠」が行頭にあるとき、「⠠」の符号と混同しないよう前置するものです。「⠠⠠」のようになります。また、「⠠ ⠠」で括られた点文字符号は、カタカナを表します。]

1 基本文字 (1)

漢数字 (1)

漢字にも数字があります。「漢数字」と呼ばれます。

漢点字では「⠠⠠」の形で表されます。

「⠠」は、〈漢数符〉と呼ばれます。

数値は、

⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠

で表されます。ご覧の通り、点字の数字と同じ点文字符号です。

また、漢数字には、桁を表す数もあります。

順に見て行きましょう。

(1) 一 ⠠⠠ イチ イツ ひとつ

数の1、ものの初めの意味です。

(2) 二 ⠠⠠ ニ ふた - つ



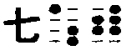
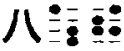
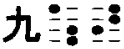

数字の2、ふたつ、二番目の意味です。



(3) 三 ⠠⠠ サン みっ - つ



数字の3、みっつ、三番目の意味です。

(4) 四 ⠠⠠ シ よっ - つ

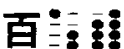
数字の4、よっつ、四番目の意味です。

- (5) 五  ゴ 一つ一つ
数字の5、いつつ、五番目の意味です。
- (6) 六  ロク むっ一つ
数字の6、むっつ、六番目の意味です。
- (7) 七  シチ なな一つ
数字の7、ななつ、七番目の意味です。
- (8) 八  ハチ やっ一つ
数字の8、やっつ、八番目の意味です。
- (9) 九  ク キュウ このの - つ
数字の9、こののつ、九番目の意味です。
- (10) 十  ジュウ とお
数字の10、とお、10の位を表します。
この字は数字でもありますが、数を超えた意味を持っています。
第一基本文字として後にも出て来ます。

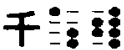
「を聞いてを知る」




- (11) 廿  ジュウ ニジュウ
「十」が二つの意味です。

「日市」

- (12) 百  ヒャク もも
数の百の桁に用いられます。数の多いという意味があります。

「聞は見に如かず」




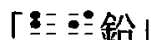
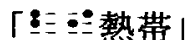



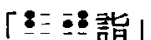

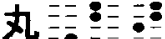

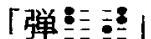
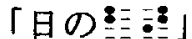


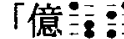
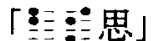
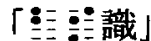


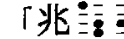


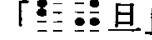
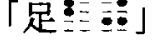

- (13) 千  セン ち
数の千の桁に用いられます。数の多い、数え切れない数の意味に用いられます。

「夜夜物語」 「今は船船」

近似文字 (1)

漢数字の近似文字

上に挙げた一六個の漢数字の近似文字、五つです。

- (1) 亜  ア つ-ぐ
「一 」の近似文字です。後につづく、それに準じたの意味です。
「細 鉛」 「熱帯」
- (2) 参  サン まい-る
「三 」の近似文字です。正式の書類には、この字を三として使います。
「加」 「詣」 「日 」
- (3) 丸  ガン まる-い
「九 」の近似文字です。まるいものの意味があります。
「弾 」 「日の 」 「シップ」
- (4) 意  イ (こころ)
「億 」の近似文字です。億の人偏のない形です。字形は「音」の下に「心」です。
「思」 「識」 「見を述べる」
- (5) 元  ゲン ガン もと
「兆 」の近似文字です。物事のはじめの意味があります。
「氣」 「日」 「旦」 「足 」

これから、読みの練習問題と、書き取りの問題があります。
書き取り問題に漢点字を入れて、答えを作ってください。
出来た解答は、郵送して下さい。

読みの練習 (1)

- (1) 三月三日を三日と言います。
- (2) 三月つ、いいことを教えましょう。
- (3) 節分は三月ですが、日は年によりずれます。
- (4) 顔には、目、耳、眉毛など三月つのものでいくつもあります。
- (5) 三月三日は女の子のお祭りです。
- (6) 三月つ目小僧なんて知っていますか。
- (7) 日本で、三月号室が少ないのには理由があります。
- (8) 上がる時には、三月、三月、三月、三月というのに下がる時には、三月、三月、三月、三月と言うのは不思議ですね。
- (9) 三月三日、鯉のぼりが空を泳ぎます。
- (10) 人の体には三月個あるものが三月つあるのです、さて？
- (11) さいころには、三月つの目があります。
- (12) 三月書と書いてリクショと読みます。
- (13) 三月三月三月は、日本の子どもの行事です。
- (14) 昔は、可愛い三月つの子、と烏を歌ったものですが…。
- (15) 三月は末広がりといって縁起の良い数字です。
- (16) 三月つというと、君は三月年生ですね。
- (17) 三月という字は、苦勞の苦と語呂を合わせて嫌うことがあります。
- (18) 野球は三月回まで戦います。

- (19) 𠄎𠄎𠄎𠄎𠄎日は立春から数えます。
- (20) 自分の年を𠄎𠄎𠄎支で言う人がいます。
- (21) 𠄎𠄎円札を知っていますか。
- (22) 昔、宮中のことを𠄎𠄎敷といったそうです。
- (23) あの人は海𠄎𠄎山𠄎𠄎の人だから…。
- (24) 彼女の心は𠄎𠄎𠄎𠄎に乱れるのだった。
- (25) 𠄎𠄎年筆を使う人が減った。
- (26) 𠄎𠄎象繰り合わせて𠄎𠄎ります。
- (27) 𠄎𠄎𠄎𠄎円の宝くじ、当たればなあ。
- (28) 体を動かすのが𠄎𠄎劫でね。
- (29) やっと春の𠄎𠄎しを感じます。
- (30) 𠄎𠄎𠄎𠄎とは𠄎𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎𠄎𠄎倍です。
- (31) あの人の仕事は、𠄎𠄎流ですよ。
- (32) 今、𠄎𠄎硫酸ガスが大問題です。
- (33) 私、𠄎𠄎薬が昔から苦手です。
- (34) 船の名前の後ろには𠄎𠄎をつけますね。
- (35) 𠄎𠄎日は年の初めですね。
- (36) 𠄎𠄎𠄎𠄎、私はとても話好きでした。
- (37) 城を復𠄎𠄎するのは難しい。
- (38) 𠄎𠄎外なことに驚く。
- (39) お前、𠄎𠄎地をはっているな。
- (40) あなたの𠄎𠄎図はもう読めました。
- (41) 心から敬𠄎𠄎を表します。

書き取り問題 (1)

- (1) さあ、いちがんとってがんぼろう。
- (2) ひとつ、おてあわせねがいます。
- (3) ぼくには、あにがふたりいます。
- (4) ぶたいには、にばんめにでます。
- (5) げいのうかいには、いろいろなごさんけがありますね。
- (6) よんばんめのおとこのこには、しろうとなをつけました。
- (7) じんせい、ごじゅうねんのときもあった。
- (8) いつつぼしのれすとらんはあるのかな？
- (9) ろくしゃくぼうは、やくいちてんはちメートルです。
- (10) むつつになると、しょうがっこうにゆうがくです。
- (11) たなばたは、しちがつなのかです。
- (12) はちにちのことを、ようかといえます。
- (13) わたしは、きゅうしにいっしょうをえました。
- (14) ここのえとは、ものがこのつかさなつたことです。
- (15) とつきとおか、あかちゃんはおなかにいます。
- (16) 「とお」のるびは、とうではなく、とおとかきます。
- (17) ごひやくえんだまをちょきんする。
- (18) ももとせとは、ひやくねんのことです。
- (19) ごせんまんえんあればなあ。
- (20) はかりしれないふかさをちひろという。
- (21) おおさかではんこくはくをひらいた。
- (22) きよまんのとみをきずいたちょうじゃ。
- (23) にほんのじんこうが、いちおくにんをこえたのはいつですか？
- (24) にほんのこつかよさんは、なんちょうえん？
- (25) いっこうに、かいふくのきざしがありません。
- (26) アメリカをかんじにすると、さいしょのあが、「あ」です。
- (27) うしわかまるとは、よしつねのことなんだ。
- (28) だんがんのように、はやい。
- (29) がんたんは、もちろんはやおきします。
- (30) むかしは、げんぷくすればおとなでした。
- (31) このことばのほんとうのいみをしりたい。
- (32) ねついでをもってこのけんにあたる。
- (33) こどもは、とくいげにはなした。

2 基本文字 (2)

1. 第一基本文字 (1)

〈第一基本文字〉とは、一マスの漢点字です。〈一マス漢点字〉とも呼ばれます。この点字符号をカナ点字で読んだときの50音順にご紹介します。

まずは、漢点字の基本的なパターン「𠄎」から。

(1) 目𠄎 モク め

漢点字の基本的な形です。墨字は、目の形に由来しています。部首となって、目に関する事、見ることを表す文字の要素になります。

「𠄎前」 「注𠄎」 「𠄎覚まし時計」

(2) 糸𠄎𠄎 シ いと

細い「いと」の形に由来した文字です。紡績、織物、縫製など、いとに関わる幅広い意味を持っています。部首の「いと偏」として、多くの文字の要素となります。

「絹𠄎 (きぬいと・けんし)」 「𠄎口」 「𠄎𠄎𠄎乱れず」

(3) 系𠄎 ケイ つな-ぐ つな-がる

墨字では、「糸𠄎」の上に小さなノの字が付いた形です。つなぐ・つながるの読みと意味があります。漢点字では、〈第二糸偏〉として、二つ目の糸偏に用いられます。糸偏の文字が沢山あるからです。

「𠄎統」 「𠄎図」 「𠄎列会社」

(4) 比𠄎𠄎 ヒ くら-べる

墨字では、人が二人並んだ形で、カタカナのヒを横に並べた形です。ひかくする・くらべるの意味があります。漢点字では、後で出て来る、〈比較文字〉の符号「𠄎𠄎」として用いられます。

「𠄎較」 「対𠄎」 「背𠄎べ」

- (5) **数** スウ かず かぞ-える
 数を数える、沢山の数の意味があります。
 漢点字では、漢数符「**𠄎𠄎**」として用いられます。
 「**𠄎学**」 「**算𠄎**」 「**𠄎え歌**」
- (6) **家** カケ いえ や
 屋根のある「いえ」です。漢点字では〈ウ冠〉として、建物に関係する意味を表します。
 「**𠄎屋**」 「**𠄎族**」 「**𠄎主**」
- (7) **宿** シュク やど やど-る
 人が寝起きする建物です。漢点字では〈ウ冠、ワ冠〉として用いられます。
 「**𠄎泊**」 「**𠄎舎**」 「**下𠄎**」 「**𠄎屋**」
- (8) **学** ガク まな-ぶ
 屋根の下で、子供が勉強している形です。
 漢点字では〈ツ冠、ナベブタ〉や他の冠として用いられます。
 「**𠄎校**」 「**𠄎問**」 「**科𠄎**」 「**𠄎舎**」
- (9) **言** ゲン ゴン い-う こと
 口を開いてものを言う形を表しています。
 部首では、〈言偏〉になって、言葉に関する意味を表します。
 「**𠄎明**」 「**発𠄎**」 「**𠄎葉**」 「**𠄎い訳**」
- (10) **語** ゴ かた-る
 墨字では「言偏」に「吾」の形です。言葉を発して話をすることを表しています。
 漢点字では、〈第二言偏〉として、二つ目の言偏に用いられます。
 「**𠄎𠄎**」 「**日本𠄎**」 「**英𠄎**」 「**物𠄎**」
- (11) **頁** ケツ ページ
 大きな頭を表しています。部首としては〈おおがい〉になります。

(12) 貝 𧄀 𧄁 バイ かい

海の生物のカイです。古く中国で、貨幣に子安貝の貝殻が使われていたことから、財産や交易に関わる文字に、〈貝偏〉として用いられます。カイの名前の字には〈虫偏〉が多く用いられます。

「𧄀殻」 「𧄁巻き」 「𧄂枚」 「子安𧄃」

=====
近似文字 (2)
=====

(1) 真 𧄄 𧄅 シン ま まこと

「目 𧄆」の〈近似文字〉です。まこと、本当の、実際のの意味があります。

「𧄇実」 「𧄈写」 「𧄉っ直ぐ」 「𧄊っ青な空」

(2) 面 𧄋 𧄌 メン おも も おもて つら む-ける

「目 𧄆」の〈近似文字〉です。カオ、あるいはカオに付けるメンです。また、カオを向ける、おもて、広く平らなものの意味があります。

「表 𧄍」 「𧄎積」 「水 𧄏」 「𧄐変わり」

(3) 云 𧄑 𧄒 ウン い-う

「言 𧄓」の近似文字です。蒸気が立ちこめている状態を象った文字です。多くの文字に、部首として含まれます。

「𧄔𧄕𧄖𧄗」

(4) 首 𧄘 𧄙 𧄚 シュ くび かしら

「頁 𧄛」の〈近似文字〉です。アタマの形を象った字です。人のクビ、人の上に乗ったもの、人を束ねる人などの意味があります。

「𧄜相」 「元 𧄝」 「𧄞筋」 「𧄟っ玉」

(5) 貝 𧄀 𧄁 グ つぶさ そな-える

「貝 𧄀」の〈近似文字〉です。何かをしたり作ったりするときを使うもの、何かのために、こまごまと用意するものの意味があります。

「𧄂枚」 「道 𧄃」 「𧄄体」 「𧄅合」

- (27) 単^レを^レつな^レげて^レ文^レ章^レに^レす^レる。
- (28) その^レ地^レ方^レに^レは^レ部^レが^レい^レた。
- (29) 書^レ物^レの^レを^レと^レい^レま^レす。
- (30) 塚^レを^レ掘^レって^レ昔^レの^レ生^レ活^レを^レ知^レる。
- (31) 殻^レを^レ、^レば^レい^レか^レく^レと^レ読^レむ。
- (32) あ^レの^レ人^レこ^レそ^レの^レ者^レだ。
- (33) 相^レは^レ分^レか^レら^レな^レい。
- (34) 紙^レを^レ角^レに^レ切^レる。
- (35) その^レ話^レは^レ嘘^レか^レか^レ？
- (36) 初^レめ^レて^レ対^レした^レ親^レ子^レ。
- (37) 立^レち^レが^レ似^レて^レい^レる^レね。
- (38) の^レ皮^レが^レ厚^レい。
- (39) 尾^レ良^レく^レい^レっ^レた。
- (40) 席^レで^レ卒^レ業^レし^レた。
- (41) 筋^レが^レ美^レし^レい。
- (42) こ^レこ^レは^レ実^レ験^レ器^レが^レ多^レい。
- (43) 装^レ身^レとは^レア^レク^レセ^レサ^レリ^レー^レの^レこ^レと^レで^レす^レね。
- (44) わ^レけ^レを^レに^レ説^レ明^レし^レな^レさ^レい。

書き取り問題 (2)

- (1) わたしのしわざです、めんぼくありません。
- (2) ほんのもくじをつけましょう。
- (3) かもくは、いくつ、しゅうりょうしましたか。
- (4) かわべで、つりいとをたれる。
- (5) きんし・ぎんしのおびはよそゆきです。
- (6) わたしは、ぶんがくけいのにんげんです。
- (7) ぼうけいだから、このかいしゃではしゅっせするかどうか…。
- (8) かれは、ひるいなきひとだ。

- (9) やまのたかさをくらべてみよう。
- (10) なわとびのかいすうをつけましょう。
- (11) わたしが、かずをかぞえる。
- (12) これをおえるのには、すうねんかかります。
- (13) ねずみのいっかは、やねうらべやにすんでいました。
- (14) りょうけをだいひょうしてはなす。
- (15) いえに、はやくかえりたい。
- (16) いぜんのながやには、おおやさんがいた。
- (17) とうかいどうのしゅくばは、いくつあるの？
- (18) きょうはこのやどにしよう。
- (19) うつくしいほしがやどる。
- (20) このがくせいは、てんもんがくをならった。
- (21) こうがくしんにもえて、まなんでいる。
- (22) よげんしゃがあらわれた。
- (23) たごんは、むようですぞ。
- (24) いうはやすいがおこなうは…。
- (25) ちちおやにことづけをよろしく。
- (26) いまは、がいらいごがおおすぎる。
- (27) とうとうと、かたってきかす。
- (28) けつがんをページがんともいうそうです。
- (29) やまぶしがほらがいをふく。
- (30) らでんは、かいをちりばめたものです。
- (31) びょうしゃが、しんにせまっている。
- (32) まごころこめてかんびょうする。
- (33) きみには、まことにかんしんしました。
- (34) しらすで、おもてをあげる。
- (35) おもざしはそふそっくりです。
- (36) せいふしゅのうが、ここにくるのだ。
- (37) かんじのぶしゅは、やまほどある。
- (38) くびをあらってでなおしたまえ。
- (39) それはようぐばこにしまうものだ。
- (40) さあ、つぶさにはなしましょう。

* * * * *

2 基本文字 (2)

2. 第一基本文字 (2)

〈第一基本文字 (一マス漢点字)〉の続きを勉強しましょう。

- (13) **金** キン コン かね
黄金の意、まばゆく光っている形です。カネと訓読する場合は、おかねを意味します。また、最も大切なものの意にも用いられます。部首としては、金属の名前や、金属に関する文字を表します。
- 「**色**」 「**黄**」 「**星**」 「**科玉条**」
「**は天下の回りもの**」
- (14) **木** モク ボク き こ
植物の木を象った文字です。部首として、木の名前、木を素材としたものを表します。
- 「**樹**」 「**材**」 「**星**」 「**肋**」
「**並道**」 「**場**」 「**添え**」 「**挽き**」
- (15) **草** ソウ くさ
草の根と茎と葉を表した文字です。墨字では草冠の下に早の形ですが、漢点字では「**草冠**」の形で〈草冠〉に用いられます。意味は、草、花、草を素材とした作物などを表します。
- 「**原**」 「**根皮**」 「**書体**」 「**民**」
- (16) **犬** ケン いぬ
犬の姿を象った文字です。部首では、〈獣偏〉として、主に肉食動物を表します。漢点字でも同様に、〈獣偏〉に用います。
- 「**忠**」 「**盲導**」 「**も歩けば棒に当たる**」
- (17) **子** シ ス こ ね
身体の割に頭の大きな赤ちゃんを象った字です。音はシとともに

スと読むことも多くあります。十二支のネズミの意味もあります。部首として沢山の文字に含まれます。

「孫」 「利」 「椅」 「扇」 「供」
「親」 「甲」

(18) 都 ト ツ みやこ

国の中心の都市です。この文字に含まれる部首は〈おおざと〉ですが、漢点字では、「ざと」(こざと)、「ざと」(おおざと)と、二つの働きをします。

「京」 「東京」 「合」 「の西北」

(19) 市 シ いち

ものを売り買いするためにひとの寄り集まる所です。各地にあるバザールや金融商品を取引するマーケットも含まれます。現在では行政区画の〈市〉の意味が強くなっています。

「場」 「場」 「横浜」 「場」 「蚤の」

(20) 発 ハツ はな-つ た-つ

ものごとを始めるという意味です。漢点字では「はつがしら」に用います。

「出」 「送」 「育」 「車」

(21) 食 ショク た-べる く-う

食物を口に入れてたべることです。部首では、〈食偏〉として用いられます。

「事」 「外」 「動物」 「べ物」 「い」

(22) 馬 バ マ うま

動物のウマです。たてがみを靡かせて走る姿を象った文字です。部首では、〈馬偏〉として、交通や騎馬・軍事に関わる文字を作ります。

「荷車」 「競」 「駿」 「絵」 「」

「𠂔方」 「縞𠂔」

(23) 田𠂔 デン た

綺麗に区画されたたんぼです。古く中国では、はたけの意味にも使われました。部首として多くの文字に含まれます。〈田づくり〉では農業に関わる意味を表しますが、必ずしも〈田〉の意味を表すとは限りません。

「水𠂔」 「𠂔地」 「𠂔畑」 「稻𠂔」

(24) 竹𠂔 チク たけ

植物のタケです。タケの枝が茂っている形を表しています。部首では、〈竹冠〉として、タケの名前や、とりわけタケを素材とした作物、多くは農具の名前に含まれます。

「𠂔𠂔の友」 「𠂔林」 「𠂔の𠂔」 「𠂔𠂔」

近似文字 (3)

- (1) **未** 𣎵 𣎵 ミ いま-だ ひつじ
 「木 𣎵」の〈近似文字〉です。漢文訓読で、「いまだ…ず」と読まれる文字です。また、十二支のヒツジの意味もあります。墨字では「木」の横棒の上に、短い横棒を加えた形です。
 「𣎵 𣎵 熟」 「𣎵 𣎵 成年」 「𣎵 𣎵 完成」
- (2) **末** 𣎵 𣎵 マツ すえ
 「木 𣎵」の〈近似文字〉です。ものの終わりの方の意味があります。墨字では「木」の横棒の下に短い横棒を加えた形です。
 「月 𣎵 𣎵」 「𣎵 𣎵 期 𣎵 𣎵」 「𣎵 𣎵 摘花」
- (3) **本** 𣎵 𣎵 𣎵 ホン もと
 「木 𣎵」の〈近似文字〉です。「木」の根本に小さな横棒を交差させた形です。木の根の意味で、ものごとの根本、本質を表しています。また、書物の意味でも用いられます。
 「𣎵 𣎵 質」 「根 𣎵 𣎵 𣎵」 「日 𣎵 𣎵 𣎵」 「日の 𣎵 𣎵 𣎵」
 「𣎵 𣎵 屋」
- (4) **由** 𣎵 𣎵 ユ ユウ よし
 「田 𣎵」の〈近似文字〉です。くびの細いツボの形を表しています。
 「自 𣎵 𣎵 𣎵」 「理 𣎵 𣎵 𣎵」 「𣎵 𣎵 縁」 「…との 𣎵 𣎵 𣎵」
- (5) **曲** 𣎵 𣎵 𣎵 キョク ま-がる ま-げる
 「田 𣎵」の〈近似文字〉です。「由」の縦棒が二本になった形です。まがる・まげるの意味から、音楽の曲想の意味になります。
 「湾 𣎵 𣎵 𣎵」 「𣎵 𣎵 線」 「楽 𣎵 𣎵 𣎵」 「𣎵 𣎵 学阿世」
 「𣎵 𣎵 げ物」 「へそ 𣎵 𣎵 𣎵 がり」

読みの練習 (3)

- (1) 曜日に会いましょう。
- (2) 法隆寺の堂が有名です。
- (3) 物は電気を通す。
- (4) そこは材置き場です。
- (5) 石のような人だ。
- (6) 大きな栗の下で。
- (7) 立の続く土地。
- (8) 畑の雑草を抜く。
- (9) 文章の下書きを稿といいます。
- (10) 歯が抜けた。
- (11) 泳ぎで泳ぐのは難しい。
- (12) 母とともに健康です。
- (13) の立て替えをよろしく。
- (14) 女のにはつけた名前が多い。
- (15) 甲と書いてきのえねと読む。
- (16) 大に住む。
- (17) 会の騒音がたまらない。
- (18) 昔、が京だった頃…。
- (19) 建築を街地に指定した。
- (20) 植が大好きです。
- (21) 明・見の歴史を探る。
- (22) 声と音の練習を毎日する。
- (23) いよいよ旅につ。
- (24) 彼女はが細い。
- (25) 何でもべて気に生きる。
- (26) 大いは考え物です。
- (27) 力を出す。
- (28) に乗ってみたい。
- (29) とは牛や馬の飼料です。
- (30) の耳に念仏の味は？
- (31) アラビアには油があります。
- (32) んぼで植えをするのは初めてです。
- (33) 大きな輪をべる。

- (34) 𠄎の林で遊ぶ。
- (35) 𠄎知の世界に行きたい。
- (36) 新𠄎、𠄎だ完成せず。
- (37) 𠄎年の人はどうな人ですか。
- (38) 枝葉𠄎節なことは気にしない。
- (39) 粗𠄎な物ですが…。
- (40) 私は𠄎っ𠄎です。
- (41) 資𠄎はいくらですか。
- (42) これでは𠄎転倒です。
- (43) かびを𠄎にする物を探そう。
- (44) あの𠄎は、𠄎の虫だ。
- (45) 𠄎来をお話ししましょう。
- (46) 事𠄎と理𠄎は同じような𠄎味です。
- (47) 𠄎緒正しい品物です。
- (48) 𠄎をお知らせします。
- (49) この先を右に𠄎がってください。
- (50) 話をねじ𠄎げては困る。

書き取り問題 (3)

- (1) こんごうせきとは、ダイヤモンドのことです。
- (2) こがねなら、すこしためてありますが…。
- (3) こがねむしはかねもちだ。
- (4) ちちは、きんせんにうるさいひとです。
- (5) もくようびまでにだしなさい。
- (6) こちらのぶきは、ぼくとうだ。
- (7) くさきもねむる、うしみつどき。
- (8) あきは、このはのまいのきせつです。
- (9) みずくさがながれている。
- (10) なまえもしらぬ、やそう。
- (11) あきたけんは、にほんのいぬです。
- (12) あれじゃあ、いぬじにですよ。
- (13) こうしとかろうしのしというのは、せんせいといういみなんです。

- (14) あっ、ぼうしがとんでった。
- (15) ぼうさんのもつ、ほっすははたきのようだ。
- (16) つまもこもあるわたしです。
- (17) ねのこくとはなんじのこと？
- (18) にほんのしゅとは、とうきょうです。
- (19) みやこどりとは、ゆりかもめのことです。
- (20) しみんのけんりをいしきしよう。
- (21) ぼろいちは、いまでもやっていますよ。
- (22) うちゅうで、はつがのじっけんをする。
- (23) かれは、すでにたびだった。
- (24) にっしょく・げっしょくをみたいなあ。
- (25) パンダは、なにをたべるの？
- (26) ばんくいきょうそうにさんかした。
- (27) けんめいに、じょうばをならう。
- (28) まごにもいしょうですよ。
- (29) けいばじょうでばけんをひろった。
- (30) でんえんちょうふにあるいえ。
- (31) たんぽにひくみずで、みずあらそいがあった。
- (32) もうそうちくは、ふといたけです。
- (33) おむすびを、たけのかわでつつむ。
- (34) せんえんみまんならきりすてです。
- (35) そんなはなしは、いまだきいたことなし。
- (36) えとの、はちばんめは、ひつじです。
- (37) まっだいまでのほじだといわれた。
- (38) これでは、よもすえですね。
- (39) ほんとうにばかなことをした。
- (40) ひとつの、ゆずのきがある。
- (41) こうなってしまったゆえんは…。
- (42) じゅうにものがいえる。
- (43) そうなさったよし…おききしました。
- (44) ここまでくるには、うよきよくせつがありました。
- (45) まつが、まがってのびた。
- (46) てつのぼうをまげる。

* * * * *

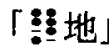
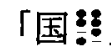
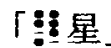
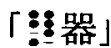
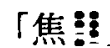
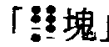
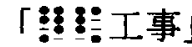
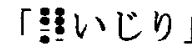
2 基本文字 (2)


3. 第一基本文字 (3)

〈第一基本文字 (一マス漢点字)〉を続けて勉強しましょう。


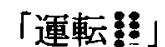




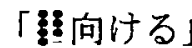
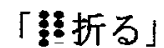
(25) 土  ド ト つち

土を盛った形を象った文字です。もとは神を祀ったヤシロの意でしたが、後に、生産の大本であるツチ、土地の意味になりました。それから、領土、国土の意味にも使われます。部首としても多くの文字に含まれます。

「地」 「国」 「星」 「器」 「焦」
「塊」 「工事」 「いじり」

(26) 手  シュ て た

人の手を象った文字です。手で何かをするという意味で、「…をする人」という意味にも使われます。部首では主に〈手偏〉として、動作をしたり、働きかけたりの意味を表します。

「選」 「運転」 「段」 「術」 「紙」
「相」 「向ける」 「折る」

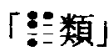
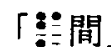
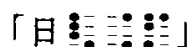
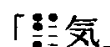

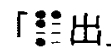
(27) 戸  コ と へ


家の戸口を象った文字です。家、戸口、扉、家の数の単位を表します。部首では、〈戸冠〉あるいは〈戸垂〉となります。

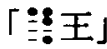

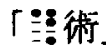
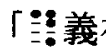



「籍」 「別訪問」 「建て」 「口」
「井」 「惑い」 「」


(28) 人  ジン ニン ひと

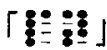
ヒトの姿を象った文字です。部首では、多く〈人偏〉として、ヒトに関わること全般の意味を表します。


「類」 「間」 「日」 「気」
「」 「出」


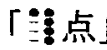
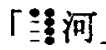
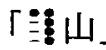
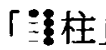
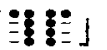
- (29) 仁  ジン ニ ひと
墨字では人偏に漢数字の二の形で、人が互いに認め合い、助け合っていることを表した文字です。漢点字では、二つ目の〈人偏〉として用いられます。


「王」 「徳」 「術」 「義礼智信」
「巧令色鮮矣」

- (30) 水  スイ みず
ミズの流れる形を象った文字です。部首では〈さんずい〉として、ミズに関わる意味を表します。


「流」 「泳」 「星」 「道」 「水」
「水」 「水鉢」

- (31) 氷  ヒョウ ヒ こおり こお-る
水が冷えて固まったもの、「こおり」を象った文字です。墨字の部首では〈にすい〉として用いられますが、漢点字では、二つ目の〈さんずい〉として、また〈にすい〉として用いられます。

「結」 「点」 「河」 「山」 「柱」
「水」

- (32) 力  リキ リョク ちから
腕にチカラを入れた形を象った文字です。一所懸命やる、力を込めて努力するという意味があります。

「入」 「動」 「電」 「点」
「力」

- (33) 示  ジ シ しめ-す
神様へ捧げ物をする祭壇を象った文字です。部首では〈示偏〉として、神事や祭祀に関わる意味を表します。

「指」 「提」 「教」 「掲板」

- (34) 私 シ わたくし
ワタクシー人の、個人の、身勝手な、という意味を含んだ文字です。「公」の対語の意味合いを強く含んでいます。
漢点字では「私」の形で、〈ノ木偏〉として用いられます。

「私事」 「私事」 「私事」 「私案」

「公私の別」 「私事」

- (35) 走 ソウ はし-る
足を早く運んで走る姿を象った文字です。部首では〈そうによう〉として用いられます。

「奔走」 「逃走」 「競走」 「滑走」 「小走り」

- (36) 進 シン すす-む
墨字では、「しんによう」に「佳（ふるとり）」の形で、先へすすむという意味を表しています。部首の〈しんによう〉は、「すすむ」という動きを表しています。漢点字でも、「進」の形で、〈しんによう〉として用いられます。

「進歩」 「進化論」 「出進行」 「行進」

「前へ進め」

- (37) 火 カ ひ
火がめらめらと燃えている様子象った文字です。部首では〈火偏〉として、火や熱や煮炊きに関わる意味を表します。また、文字の下のところに四つの点を配置した〈烈火〉として、火であぶる形、火を点ける形を表します。漢点字でも「火」で〈火偏〉を、「火」で〈烈火〉を表します。

「火星」 「火災」 「消火」 「点火」 「着火」

「火電」 「火の火」 「火の用心」

- (38) 女 ジョ ニョウ おんな め
女性の柔らかな姿を象った文字です。部首では、多く〈女偏〉として女性、やさしさ、柔らかさなどの意味を表します。

「性」 「大」 「男」 「」
「房」 「の」

(39) 玉 ギョク たま

きれいに磨いた堅い大理石を象った文字とされています。また、価値の高いもの、「ギョク」と読んで接頭語として、相手への尊敬語としたりします。「タマ」と読んで、「まるいもの」「まるく光る宝物」の意味にも用いられます。

「座」 「宝」 「珠」 「」 「に瑕」

(40) 方 ホウ かた

左右に真っ直ぐ伸びる形を象った文字です。「ホウ」と読んで、方向、方法、四角い形の意味を表し、「カタ」と読んで、相手や第三者を婉曲に呼ぶなどの意味に用いられます。

「法」 「向」 「角」 「」 「位」
「漢」 「処箋」 「…様」

(41) 石 セキ シヤク コク いし

大きな石を象った文字です。部首としては、硬いもの、壊れないもの、不毛なものの意味を表します。「コク」と読んだ場合は、重さや容積の単位に用いられます。

「材」 「岩」 「仏」 「流」 「磁」
「禄高」 「蹴り」

==== 近似文字 (4) =====

永 エイ ヨウ なが-い

「氷」の近似文字です。水が曲がりくねって細く長々と流れる様子を象った文字です。時間的にながいことを表します。

「久」 「続」 「遠」

読みの練習 (4)

- (1) 九州のことを九州という語があります。
- (2) 佐の国は信濃国にある。
- (3) 泥にまみれる。
- (4) 芸をするのが趣味です。
- (5) 服の袖に通す。
- (6) 綱を引き締める。
- (7) 春は外に出よう。
- (8) 口の口に舌を立てられない？
- (9) 信濃は東北地だ。
- (10) 種差別は反対だ。
- (11) 情味がある地です。
- (12) には愛が必要だ。
- (13) 奇麗な御じゃ。
- (14) 徳がある支配者だった。
- (15) 薬には蒸留を使うのですか。
- (16) 星の星は地球です。
- (17) 流を見に行く。
- (18) 外は雨です。
- (19) かきは大好きです。
- (20) 液体が凝りつく。
- (21) あの語があれば語語語だ。
- (22) 勢争いをしているボスたち。
- (23) 信濃杯がんばりなさい。
- (24) 選挙の告がある。
- (25) 暗に弱い我々です。
- (26) 向をす器語語がこれです。
- (27) ここでは語語を禁じます。
- (28) 立の校の月謝は高いですね。
- (29) くるくると語語燈が回る。
- (30) 語語使いをする。
- (31) 語語月にはみんな語語級します。
- (32) 後ろ向きに語む。
- (33) 日語語は語山の国だ。

- (34) 𠄎をふく鬼とは恐ろしい。
- (35) 𠄎流作𠄎を訪問する。
- (36) 源氏物𠄎に出てくる𠄎御はたくさんいる。
- (37) 𠄎禁制の島に渡る。
- (38) 長𠄎の名前をつける。
- (39) 𠄎の𠄎を見直した。
- (40) 大原𠄎が歩いた道。
- (41) こちらは、𠄎混交ですからよろしく。
- (42) この中の小さな𠄎が𠄎珠ですよ。
- (43) 𠄎油産出国を考える。
- (44) 𠄎橋という舞踊がある。
- (45) 𠄎船が行く。
- (46) 𠄎をつくすがみつからない。
- (47) 正𠄎形の折り紙を使う。
- (48) 夕𠄎と夜明け𠄎の光の違い。
- (49) 𠄎のお地藏さん、何見てござる。
- (50) 𠄎来𠄎劫に渡って続くだろう。
- (51) 𠄎の眠りにつく。

書き取り問題 (4)

- (1) よこづなもどひょういりをおぼえる。
- (2) とさけんは、にほんけんだ。
- (3) つちでつくったうつわをしらべる。
- (4) でんどうをしゅどうにきりかえた。
- (5) そのひから、わたしはてをひいたのです。
- (6) たまくらと、てまくらはおなじことばです。
- (7) いえがなんまんこもある。
- (8) とをあける！
- (9) さんのへ、というまちに行く。
- (10) じんりよくでうごかすくるまは？
- (11) にんぎよひめのはなし
- (12) あんないするひとがいます。
- (13) いは、じんじゅつです。





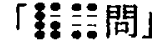


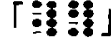
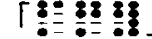

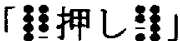




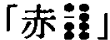
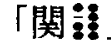
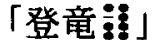

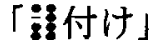

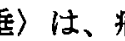

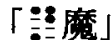
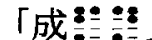



- (14) すいどうかんが、はれつした。
- (15) みずがなければせいぶつはいきられない。
- (16) やっとすべてが、ひょうかいしました。
- (17) さむいひむろにはいる。
- (18) こおりまくらをつかう。
- (19) みもこころもこおる。
- (20) りきせつしたら、わかってくれた。
- (21) でんりよくぶそくを、かいしようする。
- (22) ぜんしんのちからをこめる。
- (23) これでは、こどもにしめしがつかない。
- (24) おとなが、もはんをしめす。
- (25) してきりゆうようを、していたせいじか。
- (26) わたくしのいつものくせです。
- (27) どくそうたいせいになる。
- (28) おってくるぞ、はやくはしれ。
- (29) けんこうぞうしんの、たいそうをする。
- (30) とけいをごふんすすめる。
- (31) かちゅうのくりをひろう。
- (32) なまものは、ひをとおすこと。
- (33) あの子を、ようじよにしました。
- (34) かれこそがにようぼうやくです。
- (35) せんによのでるすてきなはなし。
- (36) おんなもおとこもおなじにんげんです。
- (37) おとこはめがみさまにやくそくしました。
- (38) かつてにきんかぎよくじょうにしてはならない。
- (39) さあ、おてだまをしましょう。
- (40) あるちほうとくゆうのことばを、ほうげんという。
- (41) あなたがたはどこからおいでで？
- (42) のじりこで、かせきをはっけんする。
- (43) ばんじゃくとは、おおきないしのことです。
- (44) かがひやくまんごくのはんしゅ。
- (45) いちばんかたいいしは、げんぶがんです。
- (46) せんぞのえいたいくようをする。
- (47) はかせは、さくねんえいみんされました。

* * * * *

2 基本文字 (2)

4. 第一基本文字 (4)

〈第一基本文字 (一マス漢点字)〉の最後です。

- (41) 耳  ジ みみ
身体のミミを象った文字です。部首では〈耳偏〉として、耳に関
わること、ものを聞くことを表します。
「」 「東風」 「鼻科」 「問」
- (42) 車  シャ くるま
荷車を象った文字です。多く〈車偏〉として、運送、交通、軍事
などの意味を表します。
「両」 「」 「」 「荷 」
「押し 」
- (43) 門  モン かど
建物や敷地の正面にある出入り口、開閉できる扉の付いたモンを
象った文字です。部首では〈門構え〉として、何かの入り口、境
界の出入りを監視する場所の意味などを表します。
「正 」 「裏 」 「赤 」 「関 」 「登竜 」
「口」 「付け」
- (44) 病  ビョウ ヘイ や-む やまい
人の生にとって避けて通れないのが病気です。病気と闘いながら
一生を送ると言っても過言ではありません。この字は、墨字では
「病垂」に「丙」の形ですが、人が病気にかかって、身体が硬く
なって、床に横たわっている姿を表していると言われます。〈病
垂〉は、病気や病魔を意味します。漢点字では「」の形で
その〈病垂〉を表します。
「気」 「魔」 「成 」 「生活習慣 」
「み衰える」 「恋の 」

- (46) 行^ㄩ コウ ギョウ アン ゆ-く おこな-う
 道の交差し行き交う形を象った文字です。道の交わったところには、人の行き交いも活発になって、市が立ち、町が発達します。「行」の字には、そのような意味が含まれて、活発な運動を表します。部首では〈行人偏〉として、〈行構え〉として、広く人の行動や社会のたたずまいの意味を表します。漢点字でも、「^ㄩ^ㄩ^ㄩ」の形で、〈行人偏〉〈行構え〉を表します。

「^ㄩ^ㄩ為」 「^ㄩ^ㄩ動^ㄩ」 「^ㄩ^ㄩ政」 「^ㄩ^ㄩ^ㄩを^ㄩ^ㄩ^ㄩする」
 「^ㄩ^ㄩ灯」 「^ㄩ^ㄩ脚」 「^ㄩ^ㄩいを慎む」 「^ㄩ^ㄩ^ㄩ知れず」

- (47) 店^ㄩ テン みせ たな
 一戸を構えて商品を商う家です。墨字では、「広垂れ」の下に「占」の形で、屋根と壁を持った建物で商いをするを意味します。漢点字では、「^ㄩ^ㄩ^ㄩ」の形で、〈広垂れ〉を表します。

「^ㄩ^ㄩ舗」 「^ㄩ^ㄩ主」 「^ㄩ^ㄩ員」 「^ㄩ^ㄩ先」 「^ㄩ^ㄩ賃」

- (48) 月^ㄩ^ㄩ^ㄩ ゲツ ガツ つき
 夜、空に上って地上を照らすお月様です。その三日月を象っています。夜を照らす淡い光、約一ヶ月で満ち欠けを繰り返します。その意味で、天体としての月ばかりでなく、時間の単位としても、大きな意味を持っています。

「^ㄩ^ㄩ^ㄩ^ㄩ (睦^ㄩ)、^ㄩ^ㄩ^ㄩ^ㄩ (如^ㄩ)、^ㄩ^ㄩ^ㄩ^ㄩ (卯^ㄩ)」

「^ㄩ^ㄩ満^ㄩ」 「^ㄩ^ㄩ^ㄩ日^ㄩ」 「^ㄩ^ㄩ^ㄩ^ㄩ」


- (49) 肉^ㄩ ニク
 身体を作っているニク、食物でもあるニクを象った文字です。部首では〈肉月〉として、身体や食物に関わる意味を表します。漢点字でも「^ㄩ^ㄩ」の形で、〈肉月〉を表します。


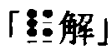
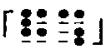
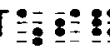
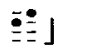
「^ㄩ^ㄩ体」 「^ㄩ^ㄩ親」 「^ㄩ^ㄩ筋^ㄩ」 「^ㄩ^ㄩ骨^ㄩ」

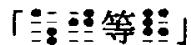

「弱^ㄩ^ㄩ強^ㄩ」




(50) 分  ブン フン ブ

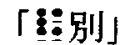
わ-ける わ-かる わ-かつ

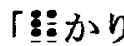
墨字では「八頭」の下に「刀」の形で、刀で肉を切り分ける様子を象っています。「フン」と読んで、時間や角度の単位を、「ブ」と読んで、貨幣や長さや重さの単位を表し、そしてものを分けること、ものごとをよく分けて理解することなどを表しています。漢点字では「」の形で、〈八頭〉や三角の屋根を表します。


「離」 「解」 「分」 「の

「等

「時時

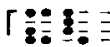
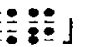
「別」

「かりました」

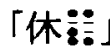

(51) 日  ジツ ニチ ひ



太陽・おひさまを象った文字です。日の出没を一日として、時間の単位を表します。部首になって、ひかり、暖かさ、自然の恵みを表す文字を作ります。水と大地とこの太陽が、太古から人々生の拠り所だったのでした。それは、現在も変わりありません。

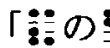
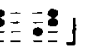
「光」 「日


「日


「日


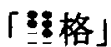


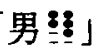

「休

「曜


「の


(52) 性  セイ ショウ さが

墨字では「立心偏」に「生」の形で、ものの性質や性格を表す文字です。〈立心偏〉は「心」の字形が変化したもので、心の状態や動きを表す部首です。また、男女の「セイ」も表します。漢点字では「」を、〈立心偏〉として用います。

「質」 「格」 「別」 「性」 「男

「個

(53) 心  シン こころ

胸の奥にある心臓を象った文字です。ものの真ん中、ものの本質という意味を持っています。部首では多く〈下心〉として、心に秘めること、思うことを表します。漢点字では「」の形で表されます。

「**臟**」 「**中**」 「**熱**」 「**理**」
「**許**ない」 「**掛**け」

- (54) **口** **コウ** ク くち
人のクチを象った文字です。人の口ばかりでなく、あらゆるもの
の入り口・出口、開いた部分を表します。部首としては、大変多
く使われています。

「**銀**座」 「**述**」 「**入**り」
「**出**」 「**掛**け」

- (55) **囿** **イ** かこ-う かこ-む かこみ
墨字では「井」の字を四角く囿った形です。周囲を囿って守るこ
とを意味します。周りの四角い枠は〈国構え〉と呼ばれます。漢
点字では「**囿**」の形で、〈国構え〉を表します。


「**周**」 「**範**」 「**板**い」 「**い**込む」


- (56) **十** **ジュウ** とお
(漢数字の項、参照)

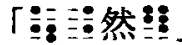
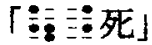
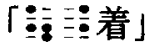
- (57) **止** **シ** と-める と-まる
とど-める とど-まる や-む や-める
足を止める形を象った文字です。動いていたものがとまる・とめ
るという意味があります。

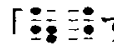
「**停**」 「**防**」 「**血**剤」 「**堤**」
「**め**」 「**め**」

近似文字 (5)


(1) 必  ヒツ かなら - ず

「心 」の近似文字です。墨字では「心」の字に、右上から左下へ線が斜めに交差した形です。

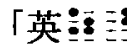

「然 死」 「着」

「ずしも…ない」

(2) 才  サイ わず - かに



「十 」の近似文字です。「十」の字に、右上から左下へ斜めに線が入ります。持ち前のの意味があります。年齢を数えるサイにも用いられます。

「能」 「天 秀 覚」




「英 教育」

(3) 正  セイ ショウ

ただ - しい まさ - に

「止 」の近似文字です。例外的に「」の形を採りました。漢点字の創案者の川上先生は、「正」の五つの画を漢点字で表したかったとおっしゃっておられました。墨字では「止」の上に「一」を乗せた形をしています。真っ直ぐな線に向かって足を止める、真っ直ぐに向き合う、正面から向き合うという意味があります。

「直 直」 「形 形」

「の と負の の」

読みの練習 (5)

- (1) 中_ニ炎_ニにかかった。
- (2) 福_ニというのを知っていますか。
- (3) _ニで電気を起こす。
- (4) 自転_車を押す。
- (5) _ニ押し_ニを探す。
- (6) 大きな_ニ柱の_ニがある。
- (7) _ニ前町はここだ。
- (8) _ニ松はお_ニ_ニにたてる。
- (9) 小さい頃は_ニ弱でした。
- (10) 自分の疾_ニ歴を書く。
- (11) 少々気に_ニむ。
- (12) 恋の_ニを、以前は恋煩いといった。
- (13) 暗夜_ニ路という小説がある。
- (14) 旅_人者が_ニき交う_ニ場。
- (15) 社内_ニ事で忙しい。
- (16) _ニ灯に_ニを入れる。
- (17) 断固、_ニは_ニきます。
- (18) _ニいを_ニしくする。
- (19) 閉_門の多い通りは淋しい。
- (20) 朝早くから_ニを開く。
- (21) _ニ賃を届ける。
- (22) 半_圓は半円の_ニです。
- (23) ここに生年_ニを書きます。
- (24) 小_ニって何ですか？
- (25) _ニ夜の晩に_ニで歩く。
- (26) 牛_乳は好きですか。
- (27) 果物の果_実にもいろいろある。
- (28) _ニ業をすると速いですよ。
- (29) _ニ別ざかりの_ニっていくつぐらいをさす？
- (30) _ニ_ニの勝負でした。
- (31) 約束通り_ニ割ずつ_ニけましょう。
- (32) _ニわんとすることは_ニかったよ。
- (33) 昼夜_ニかたず働く。

- (34) 三三三の出は初三の出。
- (35) 諸君、三夜努三せよ。
- (36) 三、暮れて道遠し。
- (37) 三は、三善説を信じる。
- (38) 三三三が表れた。
- (39) これは三間の三だなあ。
- (40) もう三身ともに疲れた。
- (41) 親三を推し量る。
- (42) 三角泡を飛ばして話す。
- (43) お経のような三調でした。
- (44) 三を大きく開けて、歌ってごらんアイアイアイ。
- (45) 三士の胸三を測る。
- (46) 建物の三三三を三う。
- (47) 池の周りを三む。
- (48) 三みを破る。
- (49) 三中三三三、間違いない。
- (50) 三三三色と三いますが…。
- (51) 今三三三に三きます。
- (52) 上から中三の命令が来た。
- (53) ありの三三を三める。
- (54) 古時計が三まる。
- (55) 雨が三んで虹が出た。
- (56) 三むを得ないでしょう。
- (57) 今後は悪いことを三めます。
- (58) 三三勝間違いなし。
- (59) 三三要に迫られて、つい…。
- (60) これを三三三読むこと。
- (61) 三三色兼備とはあの三のことです。
- (62) 三三三三三は還暦です。
- (63) 三三義は勝つ、という歌がはやった。
- (64) これこそ三三三三三銘三三物です。
- (65) 名前は、三三三しく呼んでください。
- (66) 三三にその通りです。
- (67) 会社の規則を三三す。

書き取り問題 (5)

- (1) すべてを、ぎゅうじっているおとこ。
- (2) さいきん、みみなりがしてこまります。
- (3) すいしゃのおとは、なつかしい。
- (4) くるましゃかいがこわいのです。
- (5) もんがいふしゅつのかいがです。
- (6) わらうかどにはふくきたる。
- (7) きゅうびょうにんがでた。
- (8) ひさしく、むすめがやんでおります。
- (9) こころのやまいは、げんだいびょうです。
- (10) きゅうこうれっしやがしゅっぱつした。
- (11) だいまようぎょうれつがとおる。
- (12) 「ゆくひ」とかく、あんかはむかしのだんぼうきぐです。
- (13) これから、しけんをおこないます。
- (14) ぎんこうのしてんめいを、おしえてください。
- (15) うちのみせにもよってよ。
- (16) たなことといえば、こもどうぜん。
- (17) げつようびに、げっしゃをもらった。
- (18) さんがつにはそつぎょうします。
- (19) あのつきに、はじめていったひとびとは？
- (20) にくしょくどうぶつは、はがつよい。
- (21) いんかんと、しゅにくはペアでつかう。
- (22) かぶんのごしゅうぎをいただきました。
- (23) でまえは、ごふんまえにでました。
- (24) それじゃあ、わたしのほうがぶがわるいよ。
- (25) きかなくとも、もうこたえはわかる。
- (26) かれらがたもとをわかつのは、ひつぜんです。
- (27) さいじつぐらいは、やすもうよ。
- (28) につかんしんぶんだけ、とっている。
- (29) にちようひんをかう。
- (30) ひのひかりがこいしい。
- (31) あなたはてんせいの、びせいですねえ。
- (32) わたしは、くろうしょうなんです。
- (33) これは、にんげんのかなしさです。

- (34) ところで、ほんしんはどこにあるの？
- (35) ほとけごころで、てだすけしましょう。
- (36) あの、かこうちかくにアザラシが…。
- (37) くちでつたえたり、おしえたりするのが、くでん。
- (38) くちはっちょう、てはっちょうのひと。
- (39) これは、あまくちのおさけです。
- (40) わたしのしゅびはんいはどこまでだ。
- (41) コンクリでいえをかこう。
- (42) かごめかごめと、こどもをかこむ。
- (43) かいたイラストを、かこみでくくる。
- (44) ついに、じゅうがつになった。
- (45) とおは、きゅうよりひとつおおいかずです。
- (46) しっかりせいしして、まちなさい。
- (47) けんかをとめにはいる。
- (48) やむにやまれずしてしまったのですよ。
- (49) もうあらそいはやめましょう。
- (50) だいがくのひっしゅうかもくは、どれですか？
- (51) あなたはかならずかえってきます。
- (52) かれは、たさいですね。
- (53) にじゅうよんさいでけっこんしたい。
- (54) じぶんのかいた、ぶんしょうのこうせいをする。
- (55) しょうごのじほうがきこえた。
- (56) きみのしたことはただしい。
- (57) あれは、まさにききいっぱつでしたよ。
- (58) あやまりをただすことはだいじなことだ。

* * * * *

🕒 ティータイム . . .

[お気軽に読み下さい。楽しんで読み下さい。]

『ちょっと使えるお天気知識』

「☀️は☁️無しに使われるな」、そして、「☀️は☁️無しを使うな」。☀️☀️☀️は思いやりのない☀️に雇われるな、☀️☀️は怠け者を雇うな、という☀️☀️味である。屋外労働が主だったころに生まれたことわざだ。昔は夜明けから☀️暮れまでを☀️☀️等☀️して、それを☀️☀️時とした。当然、江☀️の「昼の☀️☀️時」は夏至のころは今の約☀️☀️☀️☀️時間、冬至のころはおよそ☀️☀️☀️☀️時間というように、季節によってずいぶん違っていた。旧暦☀️☀️～☀️☀️☀️は、現☀️暦の☀️☀️～☀️☀️☀️、昼間がぐんと長くなる。そこで☀️☀️無しに雇われると、労働強化でたいへんなことになる。むろん、秋は反対で、怠け者を雇うと、ろくな仕事もしないうちに☀️☀️が暮れてしまう。

労働運動としてのメーデーの起こりは、☀️☀️☀️☀️☀️年代のアメリカでの☀️☀️時間労働制の要求であった、といわれる。☀️☀️☀️☀️☀️年☀️☀️☀️☀️☀️に「☀️☀️時間労働、☀️☀️時間の休息、☀️☀️時間の教育」をスローガンにストライキ、デモ☀️☀️☀️が☀️☀️された。それ以前から☀️☀️☀️☀️☀️に春の祭りを☀️う風習が欧米にあったが、これが労働運動に結びついた背景には、☀️☀️が長くなるにつれて「☀️☀️無しに雇われるのは辛い」という経験が欧米でもあったためと思われる。

ところで、メーデー (“May Day”) は、国際ラジオ規制により、船や航空機の☀️する無線電話救助信号になっている。これはフランス☀️で「☀️を助けて」を☀️☀️味する “m’ a i d e z” から転じたものである。

☀️☀️時間労働をはじめとして、働く者の基☀️☀️的権利が確立された現代のメーデーは、古くからの風習である春の祭典に戻りつつある。しかし、今もなお、世界のどこかから聞こえてくる「メーデー」

に⠠を傾ける⠠、といえないだろうか。

さて、このメーデーを⠠年中に連休に入る。暦を見ると、この間、⠠夜がある。立春から⠠えて⠠という⠠味だ。⠠年⠠を春、夏、秋、冬の⠠季に⠠けると、それぞれの季節の長さはおよそ⠠。その⠠の春の中の⠠が過ぎたということは、春も終わりになったということだ。そこで、昔懐かしい小⠠校の唱歌の『茶摘み』では、「夏も近づく⠠夜、野にも山にも若葉が茂る」と歌われる。

そして立夏。この⠠から暦の夏が始まる。

(小⠠館文庫 倉嶋 厚『ちょっと使えるお天気知識』「春の顔」と「夏の顔」より)

* * * * *

⠠ 横浜漢点字羽化の会

ホームページ URL

<http://www.ukanokai-web.jp/>